

活動資料 3 -ストップ・ザ・腎不全 開催とご取材のご案内- 2007年3月1日

“世界腎臓デー” 啓発イベント

**「ストップ・ザ・腎不全 慢性腎臓病(CKD)対策を考える講演会」を開催
—平成19年3月11日(日)午後1時~4時 四ツ谷 主婦会館プラザエフにて—**

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、日本慢性腎臓病対策協議会(略称:J-CKDI、事務局:東京都文京区、理事長:菱田明)は、“世界腎臓デー”啓発活動の一環として、「ストップ・ザ・腎不全 慢性腎臓病(CKD)対策を考える講演会」を開催します。

わが国では透析患者が増加の一途をたどり、2005年末現在で、25万人を超える患者が透析を受けています。しかもこの数は毎年約1万人の割合で増加し、2010年には30万人を突破するのはほぼ確実な状況であり、患者の生命予後や生活の質に及ぼす影響は甚大であるとともに、医療経済的にも大きな財政負担をかけています。

増え続ける透析(末期腎不全)患者の背景には、膨大な透析予備軍が存在すると考えられています。近年、原因の如何を問わず、腎障害を示唆する検査所見もしくは腎機能の中程度の低下が3ヶ月以上持続するものをまとめて慢性腎臓病(CKD=Chronic Kidney Diseaseの略)という広い概念でとらえ直し、公衆衛生学的な観点から対策を立てる必要があると多くの国で考えられるようになってきました。疫学調査から、米国では約2,000万人が、わが国では少なく見積もっても約420万人が慢性腎臓病と予想されます。

さらに、慢性腎臓病(CKD)が心筋梗塞などの心血管系疾患の大きなリスク要因であることは近年高い注目を浴びているところです。つまり、慢性腎臓病(CKD)は透析予備軍であるだけでなく、心血管系疾患のイベントを起す重要な因子としての役割を担う、人類の健康を脅かす重大な疾患と認識されます。

わが国の慢性腎臓病(CKD)対策は、透析患者の増加を阻止するとともに、心血管系疾患の大きな危険因子を減らすために、国民的規模での緊急な行動が求められています。慢性腎臓病の患者数は膨大なため、その対策には、腎臓専門医のみならず、慢性腎臓病診療に関わる「糖尿病専門医や循環器専門医、一般開業医との連携した診療」、「行政や患者団体、腎臓病診療支援団体との協力」など、様々な機関団体との協力体制の構築が必須です。

今回の講演会では、わが国の慢性腎臓病対策における臨床疫学研究、医療経済それぞれの観点からの重要性、慢性腎臓病対策についての診療ガイドや学際的協力体制について、また、各学会の先生方からの意見討論会、「世界腎臓デー」に代表されるような国際的な慢性腎臓病対策の報告などが行われます。日本の慢性腎臓病対策の現状を総合的に認識し、活発な議論を行

うことによって、今後の協力体制の樹立に向け、慢性腎臓病対策の新たな一步を踏み出す機会になればと考えております。

つきましては、報道関係の皆様には是非とも足をお運びいただき、今後の慢性腎臓病対策に一石を投じる発表を一足先にお聞きいただければと存じます。

ご多忙中とは存じますが、ご出席のほどよろしく願いいたします。

※お手数ですが、出欠のほどを添付の出欠票にてご返信願います

※応募は締め切りました

謹白

—記—

“世界腎臓デー”啓発イベント『ストップ・ザ・腎不全 慢性腎臓病(CKD)対策を考える講演会』

日 時: 平成 19 年 3 月 11 日(日)午後 1 時～4 時

会 場: 財団法人 主婦会館プラザエフ

東京都千代田区六番町 15 番地(添付地図参照)

TEL: 03-3265-8111

(一般の方の入場はできません)

<プログラム>

- | | | |
|--------|------------------|--------------------|
| 開会の挨拶: | 菱田 明 | (日本慢性腎臓病対策協議会 理事長) |
| 挨拶: | 黒川 清 | (政策研究大学院大学) |
| | 酒井 紀 | (日本腎臓財団理事長) |
| | 唐沢 祥人 | (日本医師会会長) |
| | (鈴木 満 | 会長代理・常任理事) |
| | 油井清治 | (全国腎臓病協議会会長) |
| 1、 | 慢性腎臓病の疫学 | |
| | 今井圓裕 | (大阪大学大学) |
| 2、 | 医療経済的側面から見た慢性腎臓病 | |
| | 山縣邦弘 | (筑波大学) |
| 3、 | 慢性腎臓病の治療 | |
| | 内田俊也 | (帝京大学) |
| | 秋澤忠男 | (昭和大学) |
| | 上村 治 | (あいち小児保健医療総合センター) |

- 4、 シンポジウム:慢性腎臓病対策を推進するために
- | | | |
|---------|------|-------------|
| 協議会 | 市川家國 | (東海大学) |
| | 榎野博史 | (岡山大学) |
| 日本医師会 | 鈴木 満 | (日本医師会常任理事) |
| 日本高血圧学会 | 石光俊彦 | (獨協医科大学) |
| 日本循環器学会 | 島本和明 | (札幌医科大学) |
| 日本糖尿病学会 | 羽田勝計 | (旭川医科大学) |
| 人間ドック学会 | 原 茂子 | (虎の門病院) |
| 腎と薬剤研究会 | 長谷川功 | (中部ろうさい病院) |
- 5、 国際的な慢性腎臓病対策と「世界腎臓デー」
- 塚本雄介 (秀和綜合病院)
- 6、 KEEP Japan について:
- 高橋 進 (NPO 法人腎臓病早期発見推進機構)
- 7、 慢性腎臓病(CKD)患者の予後と生活の質改善のための行動宣言
- 松尾清一 (名古屋大学)
- 閉会の挨拶: 齋藤 明 (東海大学)
-

<世界腎臓デーについて>

「世界腎臓デー」は腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発する国際的な取り組みとして、国際腎臓学会(ISN:International Society of Nephrology)と腎臓財団国際協会(IFKF:International Federation of Kidney Foundations)によって共同で提案され、毎年3月の第2週木曜日に実施することが提案されました。「世界腎臓デー」では、世界中の医療団体や患者団体が、腎臓病を啓発するイベントやPR活動を行っていきます。詳細は公式HP<http://www.worldkidneyday.org/index.php>をご覧ください。

<日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)について>

慢性腎臓病(CKD)は国民の健康保持にとって重大な脅威となっているにも関わらず、まだまだ社会的な認知度は低く、又、医療者の中でも十分その対策の重要性が認識されているとは言えません。そこで日本腎臓学会、日本透析医学会、日本小児腎臓病学会の腎臓関連3団体は、慢性腎臓病(CKD)対策の重要性を社会に広く広報し、慢性腎臓病(CKD)対策が国民的な規模で推進されるよう働きかける目的で、2006年6月25日に日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)を立ち上げました。この協議会は、今後、慢性腎臓病(CKD)とその合併症の克服のために、関連するあらゆる組織(学術団体、行政、市民、患者、など)と協力しながら、啓発活動を展開してゆく予定です。

<日本慢性腎臓病対策協議会(J-CKDI)賛同団体一覧>

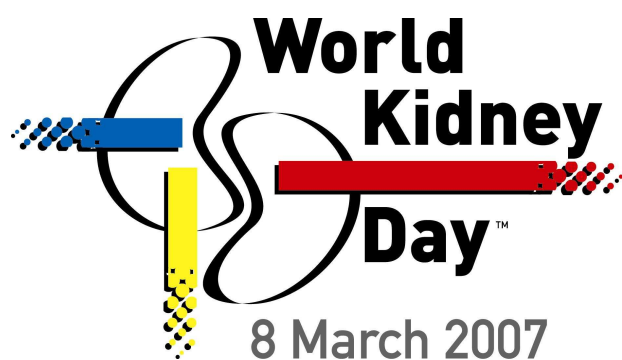
日本医師会／日本内科学会／日本糖尿病学会／日本痛風・核酸代謝学会／日本肥満学会／日本循環器学会／日本高血圧学会／日本動脈硬化学会／日本泌尿器科学会／日本臨床腎移植学会／日本小児腎不全学会／日本腎不全看護学会／日本薬剤師会／日本腎と薬剤研究会／日本産業衛生学会／日本人間ドック学会／東京都予防医学協会／日本臨床検査医学会／日本臨床化学会／日本臨床検査自動化学会／日本栄養改善学会／日本病態栄養学会／全国腎臓病患者協議会／NPO 法人腎臓サポート協会

(以上、賛同団体)

日本腎臓財団／NPO 法人腎臓病早期発見推進機構

(以上、オブザーバー)

基幹団体： 日本腎臓学会／日本透析医学会／日本小児腎臓病学会



図：世界腎臓デー公式ロゴマーク